

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人山清福祉会		
事業所名	グループホームほほ笑み		
所在地	熊本県熊本市東区戸島西5丁目5番26号		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室は庭への出入りが自由な掃き出し窓を採用し、共有空間の天窗や広いウッドデッキと相まって開放感のある建物となっている。春には隣接の園児達と一緒に農作業に取り組んでいく予定で、現段階でも利用者が庭の畑を耕したり草取りをして、目標を持ちながら準備を進めている。また日常的にこどもと触れ合う機会があり、利用者にとって良い刺激となっている。多くの職員が常に向上心を持って日々のケアにあたっており、今後の資格取得に向けて励んでいる。それに伴い、講習等の受講がしやすいよう、個々の休み希望にはなるべく添えるよう配慮している。受験費用を事業所が負担する独自のスキルアップ支援制度もある。これにより昨年度は、3名の介護職員が介護福祉士資格を取得した。また1名の介護職員が産休及び育休を取得しており、従業員が継続して働きやすい就労環境の整備に力を入れている。事業所としても平成29年度より職員の意欲、取り組みの成果を反映させる形で、処遇を見直していくこととなっている。勤続年数が3年以上の職員が8名と顔ぶれが変わらず、利用者やご家族が安心してケアを受けることができている点も魅力の1つである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、見晴らし・日当たり・利便性の良さに恵まれ、隣接する保育園と日常的な交流ができる環境にある。太陽光発電と空調設備・防災設備・猫3匹によるアニマルセラピーなど多様な工夫が行われ、居心地の良い居住空間となっている。職員は、人材育成の方針のもと資格取得などのバックアップを得て、介護サービス向上のスキルアップを図って日々の支援に活かす努力を続けている。入居者と家族や職員の様々な要望や提案は、話し合いを持って迅速に対応する取り組みがあり、母体法人の理解を得てサービス向上に活かされている。運営推進会議は、地域の方々や家族の出席があり、家族から・地域から・行政から・ホームからと、それぞれの立場で発言し協議する、協力・連携関係が築かれている。熊本地震時は、3名の被災者と、職員及びその家族の受け入れも行い、その時に応じた認知症介護の継続が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。	笑顔マークと4色のロゴで示した4項目の理念が、開設時に作成されている。利用者を理解し、愛情を持って接する事に重点を置き、利用者の今に対応したケアであるか、安心・安全の環境であるか等を職員会議で振り返り、理念を反映したケアに繋げる努力が行われている。	グループホーム設立後10年、昨年は熊本地震を経験し、敷地内に地域密着型の保育園なども設立されており、今後は地域密着型サービス事業所としての観点からの理念の検討にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また、地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。	毎年、長嶺中学校から愛のフラワー便で花のプレゼントと歌を披露する訪問や、保育園の、餅つき、七夕、ひなまつり等のイベント時や3匹の猫に会う訪問がある。現在、菜園を保育園児と利用者で楽しみたいと、本格的な畑づくりが行われている。今回の熊本地震の際は、市の要請で3名の認知症高齢者や、職員とその家族の受け入れも経験している。地震時は、近くの工場から水を頂いたり、保育園児の家族から支援物資の提供がある等、新たな交流がみられている。	ホーム周辺は多くの民家が立ち並ぶ住宅街であり、社会資源であるグループホームの存在をPRする等、今後の活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症介護家族の会合場所として、当事業所の和室が活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故の報告や入退居の状況報告を主な議題として開催している。	運営推進会議は、町内会長・町づくりの会会長・老人連合会会長・自治会長・校区社協長・ささえりあ託麻職員・家族3名の出席を得て開催されている。前回の協議項目の決議について報告後、協議事項の内容毎に、ホームの状況報告を行っており、人員確保の課題についても質問・提案など活発な話し合いが行われている。管理者は、運営推進会議の運営について目標達成計画の課題に掲げ、今年度は会議委員の防災訓練への参加を得るなど、有意義な会議運営となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センターの参加、事故発生時の連携はもちろん、必要に応じて市の担当者とも報告・連絡・相談・確認の作業を行っており、市町村と共にサービス向上に取り組む体制を整えている。	包括からは運営推進会議に毎回出席があり、ホーム運営に理解を得ている。事故発生時は、報告書をFAXし電話で話し合う等、迅速な対応が行われている。解決困難な事例については、市の担当窓口と話し合う等、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	市開催のブロック研修会の復講、認知症に関するテキストやホームで作成したマニュアルをもとに内部研修を行い、身体拘束のないケアを実施している。ニュースから、拘束や人権擁護、虐待の情報を得て、機に応じた話し合いが持たれている。必要時は負担感のないセンサーを用いて安眠支援をしたり、利用者の生活リズムに配慮した巡回、歩行時の2人介助、見守りなど、拘束のないケアへの共通認識が伺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際に施設の問題としてあった利用料の滞納についてや、ニュースになった事件等をミーティングで取り上げ、話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を立てている利用者があることを知り、制度についてミーティングで取り上げる等、理解を深めていけるよう努めている。また折に触れ、外部研修会へも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所の前に一度内容の説明を行い、入所日に再度の説明を行っている。これは、理解と納得を得られるよう十分な時間を確保し、一方的な説明にならないよう留意しているためである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示し、また、管理者も利用者の居室を訪ねて現状の把握に努めている。	玄関に意見箱を設置しているが、今までに入ったことはなく、家族は口頭で要望を伝えている。職員は、毎月の請求書と一緒に「ご家族への手紙」を作成し、写真を付けて日々の状況や疾病の経過を詳細に報告しており、家族の安心や信頼関係を築く基となっている事が伺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に、何でも職員間で話し合いをして決めることとしている。気付きの中からすぐに話し合いを持ち、オムツの種類、居室に時計をつける、訪問歯科の必要性、排泄パターンや食事形態等、様々な事が検討され、サービスに活かされている。職員の報酬、制服、休憩時間なども話し合っ、法人会議に報告し、職員の意向に沿う結果が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金等の制度の活用はもとより、各自が向上心を持って働けるよう社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会の出席だけでなく、独自に情報交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の見学時や利用申込書提出時に面談の時間を設け、現状とニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳み、お盆拭きやおしぼり作り等の日常の家事を一緒に行い、本人が介護される一方の立場におかれぬよう留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の会話等から聞き取った内容(近所の美容院に行きたい、なじみのうなぎ屋に行きたい、友人に会いたい等)を、本人の要望としてご家族にお伝えしている。必要に応じて、本人から家族への電話について、対応の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人あての荷物が届いた際には、送り主に電話を入れることを提案したり、年賀状やハガキの返信をお手伝いしている。また職員は面会者とも交流を持ち、足を運びやすい雰囲気作りをしている。	利用者により、面会が多い人、少ない人がおり、フロアや居室でお茶や飲み物などを用意し、面会に来やすいよう配慮している。利用者の墓参りや自宅に帰りたい、食事や昔いた病院に行きたい等の要望は、家族の協力を得て、意向に沿う支援が図られている。利用者は記憶していないことが多いが、その時々利用者の気持ちに沿って、途切れない関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後にも、病院で行われるカンファレンスに参加して継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。	二人のケアマネジャーのアセスメント記録は利用者情報の源となっていて職員はパソコンで確認できる仕組みとなっている。利用者のつぶやきや職員の気付きは、日々のSOAP形式の記録や申し送りによって伝えており、一人ひとりの意向の把握と共有のもと、本人本位の支援をする話し合いが持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集によって、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報や家族からの情報を元に、概ね1ヶ月程度の状況把握期間を経て介護計画を作成している。	ケアマネージャーは、半年に1回、短期目標の見直しをする事を基本としていて、要介護度変更時や入院、退院など状況の変化時にプラン作成を行い、利用者の今に沿った介護計画としている。日々の経過記録や申し送り簿はモニタリングの情報としてアセスメントに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴等の時間に関しては、本人のご様子に合わせ柔軟に対応している。その時に食べたい物、欲しい物のリクエストがあれば、一緒に近所のスーパーに出かけ、希望の買い物ができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中学校を招待した行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の協力医療機関往診を基本としているが、以前に受診していた病院や専門医等の受診希望があれば、当事業所が通院に係るすべてを行う形で支援している。	協力病院から月1回、往診が行われている。往診前に利用者の健康状態などをFAXし、発熱などの体調変化時は電話で報告をする医療連携体制が図られている。利用者や家族の希望によるかかりつけ医や専門医への受診支援は継続されており、アンケートからは家族の安心度が伺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の情報や気づきは、往診担当者や管理者からかかりつけ病院の看護師を通じて、医師の判断を仰ぐことができる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で開催されるカンファレンスには概ね出席しており、退院に向けた調整には積極的に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては、医療機関との連携に関する一般的な方針の説明を行っている。	入居時に看取りをしない方針が説明されて同意を得ているが、実態として看取りに至った経験がある。管理者と職員は、家族の希望や社会情勢から看取りの必要性を持っていて、目標達成計画に看取りの支援への取り組みを計画している。	職員は日頃から利用者の安楽な呼吸のための喀痰吸引の必要性を感じていることから、介護職の吸引実施の資格取得等の取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講習会を依頼し、AEDの使い方、心肺蘇生法、異物除去、応急手当の仕方等について、学ぶ機会を作っている。利用者の突発的な症状については、24時間看護師または、かかりつけ医の指示を仰ぐことができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	一時避難場所を、掃出し窓からウッドデッキに出てすぐの敷地内の畑としている。年2回、防災訓練を行っていて、現在は訓練に運営推進会議委員参加の協力を得ている。訓練後、管理者からは、計画書をもとに災害時の通報方法と火災一斉メールやスプリンクラー等の説明、委員からは、近所との関係づくりの必要性やコンセント掃除等の提言などをもとに話し合いが持たれており、今後の地域との協力体制づくりが期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	テキストによる内部研修の機会に、人格の尊重とプライバシーについての教育を徹底している。	理念やテキストをもとにした内部研修、身体拘束禁止マニュアルにある自尊心に配慮する言葉かけ等をもとにして、人格を大切にす対応が図られている。評価日は、発語の少ない若年性認知症入居者の排泄誘導時に笑顔の中での2人介助が行われていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクレーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は原則的に各利用者が自由に選択したものを着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理前の下準備や、下膳後の片付けなどを入居者と一緒に行っている。一品でも自力摂取ができるよう、主食の形態をおにぎりにしたり、食事をのせたスプーンを手渡し、後は自力で口に運べるよう促す等、個々の状態に合わせた支援を行っている。	嚥下体操の後、音楽が流れる中、その人に合わせた時間と姿勢で、U字型のテーブルや大きさの違うテーブルに座って、自力摂取やマンツーマン介助での食事風景が見られた。調理済みの食事が毎日配達され、朝食とおやつは手作りをして、入居者に合わせた形態と適温での食事が提供されている。入居者が希望する食べ物は、家族の協力を得て買いに行ったり持ってきてもらったりしているが、郷土料理や旬の食材を用いて、変化や新鮮さを楽しむ機会づくりに期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ、食形態の見直しについてはこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きの部分的な介助など、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。また定期的に歯科検診を行い、義歯の微調整や治療、口腔ケアがスムーズに進むよう、歯科医やご家族との連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて時間による誘導やポータブルトイレを活用などの手段を講じ、排泄の自立にむけた支援を行っている。また常時おむつ着用の人に関しても、排便を促す為にトイレへ誘導することがある。	様々な形の手すりが付けられた特殊便座や背もたれ付き便座などを用いて、要介護度の高い入居者のトイレでの排泄にも対応する工夫がある。3つのトイレには、換気扇・空気清浄機・暖房が設置され、排泄用品や必要物品が準備され、快適な排泄への支援がみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導時に腹部マッサージを行い、排泄を促している。またヤクルトやヨーグルトを摂取して頂き、腸内環境を整える手助けをしている。排便の状況によっては医師と相談の上、下剤の調整を行なっている。定期的な水分補給や体操によって、腸の働きが改善するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。可動式の浴槽やリフトの活用により、多様な入居者が安全で快適に入浴できるようになっている。しょうぶ湯やゆず湯等の行事浴を提供している。	週に2回、午後からの入浴を基本として、希望時や必要時は随時入浴が行われている。浴室はリフト浴と、左右可動式の浴槽が設置されていて、入居者と職員の負担軽減と安全へ配慮された浴槽につかる入浴が続けられている。脱衣場は洗濯機と乾燥機や汚物洗浄槽、必要物品が使い勝手よく配置されているが、スキンケアなどの医療処置やヒートショック対応などを予測した整理整頓に期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は基本的に自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお盆拭きなど、能力に応じた役割を分担したり、事業所内にて猫を飼育することで日常生活に楽しみと変化を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩をレクリエーションの一環として実施している。	車での初詣や桜・銀杏見学、ドライブ等に出かけているが、年齢層や介護度が高くなり、ウッドデッキでの外気浴や隣の保育園児の遊ぶ様子を見る事が多くなっている。病院受診時は、家族の協力を得てドライブや外食を楽しむ機会づくりとしている。園児が見守る中、体力のある入居者と職員による畑づくりの作業が進められていて、来年度、園児と入居者による作物の栽培と収穫が期待されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、レジでの支払いを手助けしながら一緒に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人あての荷物が届いた際には、送り主に電話を入れることを提案したり、年賀状やハガキの返信をお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窓、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計に加え、室内には観葉植物を飾ってある。また、和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。	木組みの天井と天窓のあるリビング、それに続く掘りごたつのある和室は広いウッドデッキにつながり、広々とした風景が望まれ、居室から集まりやすい設計となっている。色々なお雛様・大型の水槽の熱帯魚・3匹の猫と止まり木は動線を遮らないよう工夫され、個別対応の日中活動や、利用者が一緒に楽しむテーブル配置となっている。太陽光発電システムのもと、床暖房と空調設備・空気清浄機・加湿器等が配置され、快適な環境づくりへの配慮が見られた。また、季節の花々や観葉植物、玄関に置かれた鍬と長靴などから、家庭的な柔らかい雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある居室やフローリングの居室があり、掃き出し窓から中庭・ウッドデッキへ直接出られるように工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。	全居室から外の風景が見える設計のもと、ベッドやテーブルと衣装掛けなどはその人に適した配置となっている。箆笥の上の仏壇や写真・和紙人形・時代劇観賞用のテレビと椅子などで、それぞれ雰囲気の違う部屋となっている。各居室に空気清浄機と加湿器が置いてあり、クローゼットの清掃や整理整頓は主に職員が行っていて、清潔な環境づくりが図られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		